

現代の子どもたちの食習慣の乱れを表すのに「ニワトリ症候群」という造語が使われています。造語の由来は、一人で食事をする様子を「孤食」、朝食を食べない「欠食」、同じ食卓に座っている者たちが異なる献立で食事をしている状態を指す「個食」、同じ食品しか摂らない様子を指す「固食」の最初の文字を並べると「孤欠個固(コケコッコ)」になるからです。

食習慣の乱れは子どもに限ったことではありません。朝食の欠食は、20代、30代の男性に特に目立っています。食習慣の他にも、食品の産地偽装、原材料偽装、消費期限・賞味期限の偽装など、食品の安全を巡る事件が絶たない状況に



写真1

「ニワトリ症候群」を知っていますか

「食育リーダー養成プログラム」は、1回生前期の「先端科学の基礎概念」というオムニバス形式の授業から開始されます。それぞれ、物理、化学、生物、地学、数学を専門とする十数名の教員が自分の分野の先端的なトピックスをリレーして授業を進めます。

学による地域食育推進プログラム「食育オフィスの開設と食育リーダーの養成」(通称「食育GP」)が選ばれ、地域貢献と教員養成の両面から食育を支援する組織を充実させることができました。

教員養成においては、食育推進の中心的存在となる教員(食育リーダー)を養成するための食育・健康教育プログラムを実践しています。これは、食育の必要性や考え方を体系的に教育し、実践的指導力を育成するとともに自己の食生活を管理する能力を高めるためのプログラムです。プログラムは、教養科目群、専門科目群、実践科目群から構成されています(図1)。プログラムの中心となるのが期待されています。



写真3

食育リーダー養成プログラム

地域・学校の食育を支援します

「食育リーダーの養成」

生活科学教育講座 教授 鈴木 洋子



「食育リーダー」を育てます

食育基本法が成立する以前から、本学ではフレンドシップ事業(※)「味覚をいかしたクッキング」で料理教室を開催し、地域の子どものための食育推進に協力してきました。また、基本法成立の翌年、平成18年には教養科目に「食育と生活」の授業を新設するなど、食育について学ぶ機会を提供してきました。これら食育への取り組みが高く評価され、文部科学省による平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」に、本学の「教員養成大

学による地域食育推進プログラム「食育オフィスの開設と食育リーダーの養成」(通称「食育GP」)が選ばれ、地域貢献と教員養成の両面から食育を支援する組織を充実させることができました。

教員養成においては、食育推進の中心的存在となる教員(食育リーダー)を養成するための食育・健康教育プログラムを実践しています。これは、食育の必要性や考え方を体系的に教育し、実践的指導力を育成するとともに自己の食生活を管理する能力を高めるためのプログラムです。プログラムは、教養科目群、専門科目群、実践科目群から構成されています(図1)。プログラムの中心となるのが期待されています。

地域食育推進を お手伝いします

地域貢献においては、教材教具の開発と配布、子ども用包丁の貸し出し、シンポジウムや料理講習会の開催等を通して、学校や家庭における食育を応援しています。家庭科や栄養教職員の先生方と「食育リーダー」を目指す学生が協力して制作した教材DVD「奈良に学ぶ」は、学校の授業などで活用されています(写真4)。奈良県下の図書館や公民館でも視聴することができます。

※フレンドシップ事業：学生が子どもたちへの体験活動を実施することで実践的指導力の基礎をつけることを目的とした事業

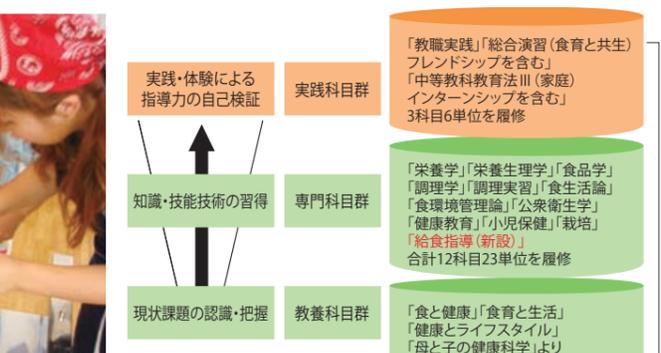


図1



写真2

幅広い知識と経験を 特色あるプログラム



教科書研究発表会

新理数プログラム あなたも理数で輝く先生に!

理数教育研究センター長 松山 豊樹



はじめに

理数離れは、言われ始めてから約二十年近くにもなります。理数は、我々の生活を支える科学技術の重要な基盤であるだけでなく、一人一人の人生を豊かにする「考える力」を育みます。教員養成を使命とする奈良教育大学では、平成17年度から理数に強い教員の養成を始めました。「新理数」と略称され、正規の教科以外に、これから紹介する特別な教育プログラムを希望制で履修することが出来ます。

「興味・発想」の芽、「論理・抽象的思考」の力を育てる導入教育

新理数プログラムは、1回生前期の「先端科学の基礎概念」というオムニバス形式の授業から開始されます。それぞれ、物理、化学、生物、地学、数学を専門とする十数名の教員が自分の分野の先端的なトピックスをリレーして授業を進めます。

2回生から、「新理数教育Ⅰ～Ⅳ」の科目群が開始されます。2～3回生の間に、学生各自の力量を伸ばすために、プロジェクト教員のアドバイスを受けながら、様々なメニューを選ぶことが出来ます。教科専門性を向上させるためのゼミナールが実施されます。教育実践力を身につけるために、連携協力校の授業に実際に入ることが出来ます。独自の教材・カリキュラム・教科書の開発を進めることが出来ます。その他、ここには書ききれませんが、様々なミニ・プロジェクトが同時進行で2年間走り続けます。

大きな山場は、2回生の夏に山村部の小・中学校に3泊4日の合宿をして実施される「サマースクール」です。ここでは、学生自らが企画した理科・数学(算数)実験のブースを運営し、児童・生徒たちに科学の楽しさを満喫してもらいます。純粋な児童・生徒たちの輝く瞳

は、学生の教師像形成の原点となるでしょう。

SST認定

新理数プログラムには、二つのコースがあります。一つは、理科・数学(算数)を専攻する学生を主たる対象としているSuper Science Teacher (SST)コースで、一定の基準を満たすと奈良教育大学として学長名でのSSTの認定を行います。SSTは、理科・数学(算数)の教員として特に優れた力量を持っている教員の証となります。一方、主に文系の学生は、SSTベースリック・コースに参加することが出来ます。小学校教員は、理科・数学(算数)を専攻していません。それらを教えなければなりません。理科・数学(算数)を専攻しないが、小学校教員を目指す学生には、是非参加して欲しいと思います。

理数で輝く先生に!

教員を志望する受験生のみならず、順調に行けば、今から約4年半後に学校の教壇に立っていることでしょうか。未来のあなたは、どの教科を担当しているでしょうか? 理科・数学の教員となり、生き生きとした授業をやっているでしょうか? 苦戦していませんか? 文系を専攻したあなたは、小学生の素朴な質問に戸惑っていないでしょうか? 新理数プログラムは全国的にも珍しい教育プログラムです。是非、奈良教育大学で「理数で輝く先生」を目指しませんか?



SST認定書授与

参加学生の声

SST二期生 大学院教育学研究科 修士課程 教科教育専攻 理科教育専修 1回生 (私立甲南高校出身) 大久保和則

新理数での4年間は、少人数ゼミや、授業観察、教材開発など、贅沢な日々でした。「新理数教育」では、やりたい実験教材に挑戦できる環境があり、たくさんの方の失敗と成功を経験できました。また、高水準で、教師の仕事の間近で感じることもできました。一番学んだことは、教師には、教科専門のスキルが重要だということです。授業の説明や、生徒とのかかわりの中で、如実に表れてくることを身を持って感じました。

情報技術の発達などにより、時代は地球規模で考えるグローバル化へと進んでいます。海を越え諸外国で生活し、人間関係を築くことは決して楽しいことだけではありません。しかし、そこには人生観を変えるような貴重な経験が待っています。文化や価値観の異なる中で、地球人として世界とそして日本を考えることは、今後の人生にとって大きな糧となることでしょう。

本学では、7カ国11大学と国際交

得られるものは
語学力だけじゃない

海外留学プログラム

世界へ羽ばたき国際交流

キャンパス内で気軽に国際交流

奈良教育大学ではどちらも経験ができます!!

副学長(国際交流・地域連携担当)
加藤 久雄



流協定を締結しており、毎年、各大学に1名又は2名の学生が一年以内の期間、留学することができます。留学中の期間も修学年限に計算され、長期留学プログラムの場合は、留学先で修得した単位も審査を経て奈良教育大学での修得単位として認定されます。また、交換留学期間中も本学へ授業料を納めることで、留学先大学の入学料及び授業料が免除となります。

今年度から韓国の国立公州大学の短期留学プログラムが新たに加わりました。夏季休業中に二週間、韓国語や韓国文化の授業だけでなくユネスコ世界文化遺産探訪や、現地の教育機関訪問など、大変充実したス

ケジュールが組まれており、本学の学生は協定校参加費で割安で参加することが可能です。

国際交流のステージは キャンパスにも

一方で、現在18カ国から74名の外国人留学生の本学で勉強しています。入学したばかりの留学生のために、一人の留学生につき一人の学生がキャンパスライフや日本での生活をサポートするチューター制度を設けています。このような制度を活用することで、学内でも気軽に国際交流を行うことができ、各国からの留学生と友達になることが可能です。



多くの友人たちとの出会いも留学の醍醐味

国際交流協定校

国名	大学名
インドネシア	インドネシア教育大学
	光州教育大学校
韓国	公州大学校
	嶺南大学校
中国	華東師範大学
	西安外国語大学
ドイツ	ハイデルベルク大学
フランス	リヨン第三大学
ルーマニア	ブカレスト大学
アメリカ	セントラルミシガン大学
	ロック・ヘイブン大学



世界中からの留学生との交流も



休日にはピクニックに



幼稚園を訪問して子ども達に日本を紹介



国際シンポジウムにて

「地域と伝統文化」教育プログラムは、日本国内だけでなく世界から注目を集めて

奈良の伝統文化と
文化財教育のリーダーに

「地域と伝統文化」教育プログラム

地域の誇りを世界へ

美術教育講座
教授 山岸 公基



いる奈良の伝統文化・文化財について、学際的・教科横断的な認識・理解を形成し、知識・基盤社会を多様に支える高度専門職業人として、リーダーシップを発揮する教育者を養成することを目的とした、大学院生対象の教育プログラムです。

授業とワールドワークなどで 実践力を養成

プログラムでは、これまでに次のような取り組みを行ってきました。

奈良の伝統文化・文化財をテーマにした
授業科目の組織化

共通コア科目「世界の中の奈良」、実践コア科目「伝統文化発信法」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを新たに立ち上げました。これらの新設科目は、従来から奈良教育大学において展開されてきた、奈良の特色ある伝統文化と接点を持つ多くの授業科目や、そこで履修生が身につける多様な専門的知識・技能を、実践面を重視しながら束ねるものです。必要な単位を取得した履修生には「プログラム修了証書」を交付し、奈良の文化を継承・発信する力量を身につけたことを証明しています。平成20年度には3名、平成21年度には5名のプログラム修了者を出しました。

国際シンポジウム・ 海外フォーラムの開催

平成21年度には、国際会議と海外フォーラムを開催。教員のみならず大学院生も発表やポスター制作に積極的に参加しました。また、海外フォーラムや国際シンポジウムでの発信の前提となる知識・経験・技能・国際性を習得するために、学内外有識者による連続講座や、奈良の伝統文化

国際シンポジウム 海外フォーラムの開催

平成21年度には、国際会議と海外フォーラムを開催。教員のみならず大学院生も発表やポスター制作に積極的に参加しました。また、海外フォーラムや国際シンポジウムでの発信の前提となる知識・経験・技能・国際性を習得するために、学内外有識者による連続講座や、奈良の伝統文化

化・文化財の源流および伝播の実態を探る国内外実地研修を積極的に実施してきました。連続講座は足掛け3か年で計23回、国外実地研修は計7回に及びました。開催したシンポジウム等は以下の通りです。

百済文化国際シンポジウム

本学で開催。奈良教育大学・公州大学校(韓国)・東京学芸大学共催。

日韓大学院教育交流フォーラム

嶺南大学校(韓国)で開催。本学からは教員、院生が韓国に渡り、現地で嶺南大学校の教員・院生と研究発表・討論。あわせて国外研修を実施。

国際シンポジウム

「伝統文化と教育、その将来的展望に向けて」本学で開催。嶺南大学校・インドネシア教育大学・西安外国語大学(中国)の協定三大学と本学による。

文化の継承と発信

地域への貢献活動としては、「ならまち民話地図(日本語版・英語版・動画版)ワークシート」「馬具ってなあに?」「宝山寺獅子閣案内図」などをこれまでに作成し、「ならまち民話地図」は奈良市総合観光案内所に常置されています。

今年度のプログラムでは、展覧会「仏の中にこめられた想い」(7月26日〜31日、教育資料館にて)や、秋には平城遷都1300年祭に関連したシンポジウムなどの開催を予定しています。これからも国際的視野やコミュニケーション能力を備えた、奈良の文化を継承・発信する修了生を輩出していくことをめざしていきます。

参加学生の声

大学院教育学研究科修士課程 教科教育専攻
美術教育専修 2回生
(秋田県立本荘高校出身)



作佐部 亜

私は、協定校である韓国嶺南大学校での研究発表の他、学内展覧会のための寺社・美術館での調査やポスター作成といった広報活動に参加しました。座学で終わることなく、実地研修では異文化を肌身で感じ、一人では決してできない経験をたくさん積むことができました。他専修の教授陣や学生と協力しての授業、教材開発での試行錯誤は特に力になりました。プログラムを通して、奈良が持つ文化・歴史遺産の価値、国内外からの注目を再認識することができました。



インドネシア実地研修



ならまち民話地図



百済文化国際シンポジウムで発表する大学院生

参加学生の声

総合教育課程 科学情報教育コース
物質情報専修 4回生
(国立奈良工業高等学校出身)



大畑 朋也

私は、協定校であるアメリカ、ロック・ヘイブン大学に、昨年8月から10ヶ月間にわたって交換留学生として留学していました。アメリカでの留学生活は、言葉、食事、文化など、日本では当たり前な一つ一つが当たり前ではなく、慣れるのに本当に苦労しました。そのような戸惑いの中から、言語の習得、異文化への理解、環境への適応といった日本では経験することの出来ない成長を自分自身で体感することが出来ました。同時に、これまでは日本から世界を見ていましたが、世界から私たちの国である日本を見つめるようになりました。帰国した今、留学当初の目的であった言語の習得は勿論のこと、人生観を左右する様な貴重な時間であったと実感しています。